

一刀領談

本紙客員論説委員 下條正男



しもじょう・まさお 長野出身。国学院大学院博士課程修了。1999年から拓殖大教授を務め、今年3月末で退官。現在は本

紙客員論説委員、島根県立大と東海海洋研究所の客員教授。島根県の竹島問題研究会の座長を務めた竹島研究の第一人者。71歳。

反日運動家の抗議



抗議を巡って竹島表示のホームページへ出向した韓国外務省から出た韓国外務省の相馬弘尚総括公使(左)と6月1日、ソウル(共同)

島問題は、日常の生活とは関係がないように思えるからだ。現に日本国民の中には、韓流ドラマや韓国の大衆音楽「K-POP」にメロメロな人も少なくない。大学の教養科目では韓国語が人気である。ドラマや音楽から韓国語に関心を持ったのであろう。しかし、その韓流ドラマやK-POPは、竹島問題や慰安婦問題などで、韓国の正当性を喧伝するために発足した国家ブランド委員

沈黙は金メダルでない

だが、これは奇妙な話である。歴史的事実として、竹島は1954年以来、韓国政府が不法占拠する日本の領土だからだ。それがなぜ、韓国側では「聖火リレールート地図」に描かれた竹島を問題とし、削除を求めたのだろうか。

■五輪精神を毀損

韓国側の報道では、国際オリンピック委員会(IOC)に対しても、「スポーツを通じて世界平和への寄与」「政治とスポーツの分離」との五輪精神に立脚して、日本の竹島表示を禁ずるよう求めたという。しかしそれこそ政治とスポーツの混同で、世界の平和の祭典である五輪精神を毀損する行為である。

それが韓国の反日運動家らには分かっておらず、日本も韓国側の傍若無人の振

る舞いに無感覚になってしまった。これは日韓双方にとって危険な状況である。ちよとそれは、盗人が盗みに入った家の住人に「戸締まりが悪い」と非難し、泥棒に入られた被害者が反省を強いられるようなものだからだ。

韓国側が竹島を韓国領としてきた唯一の文献『東国文獻備考』は、江戸幕府が竹島(当時の韓国・鬱陵島の呼称)への渡海禁止をした5カ月後、安龍福という人物が鳥取藩に密航し、帰還後の証言が基である。安龍福は鳥取藩主と交渉し、鬱陵島と竹島を朝鮮領にしたと、虚偽の証言をしたのである。『東国文獻備考』では、その安龍福の偽証を基に竹島は朝鮮領としているのである。

だが安龍福は、江戸幕府の命で鳥取藩によって追放されていた。鳥取藩主との交渉などなかった。それが韓国の竹島独島教育では安龍福は独島を守った英雄となっている。

■虚偽の証言が基

日韓の間には、竹島問題以外にも慰安婦問題や徴用工問題など歴史認識問題があるが、そこには共通点がある。被害者と名乗る人々の証言が基になり、過去の歴史が語られることだ。

これは歴史の事実を明らかにしなければ、虚偽の歴史で日本が批判されても、日本側では反論もできないということだ。現に日本は竹島を奪われ、国家主権が侵されているにもかかわらず、無関心な人が多い。竹

会と深いつながりがある。国際社会で韓国のイメージを高め、日本との歴史問題で優位に立とうという発想がその背景にあるからだ。今回の「聖火リレールート地図」の削除を求めた反日運動家は、韓国政府の国家ブランド委員会のメンバーでもあった。米国などを舞台に、海外で行動するその反日運動家は「現代版の安龍福」ともいえる。その彼の虚言癖と行動力は、日本社会には見られないタイプである。

この異形の隣人から「お宅は戸締まりが悪い」と言われたら、どう対処したらよいか。日本的な感覚でいたら日韓の歴史問題は解決しない。沈黙は金メダルではないからだ。

|| 随時掲載 ||